

令和4年度 第3回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和5年2月3日（金）午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 原田 哲次氏（社会福祉法人 大阪障がい者自立支援協会
大阪ワークセンター所長） 協議会会長
早川 泰史氏（堺市相談支援センター事務局長）
井上 直子氏（堺市子ども相談所参事）
徳 和則氏（堺市立上神谷支援学校校長）
小山 恭子氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

② 校長挨拶

③ 委員自己紹介

④ 会長挨拶

⑤ 協議

(1) 「学校教育自己診断」結果について

考察について教頭より説明

生徒アンケートの結果では全般的肯定率は若干低下したが、全体的には肯定的な結果となっている。「⑧生徒会の行事や委員会の仕事は楽しい」「⑫教室や特別教室・体育館等は授業が受けやすいように整っている」「⑱将来の進路や生き方について考える機会がある」「㉑先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については肯定率の低下があった。「⑩授業や行事で近くの学校の人と交流することが楽しい」については昨年度よりは若干高くなったが、低い数値にとどまっている。コロナ禍で実施回数が少ないこともあり、今後も一層の推進が必要である。

保護者アンケートの結果でも、全般的な肯定率は若干の増加であった。第2回の運営協議会でも話題としてのぼった「㉗学校はホームページを充実させたり、学年、学級通信を発行するなど情報発信に力を入れている」が10%近く減少した。改めて、情報発信に努めてまいりたい。また、「わからない」という回答が多い項目については、保護者への情報発信が一層必要である。

教職員へのアンケート結果については、全般的な肯定率が若干低下している。教職員アンケートについては、多くの課題が示された。

- 意見
- ・教員のアンケート結果で気になったところでは、生徒数に応じた教員配置はなされているのか。業務の分担でどなたかに偏っているのか。実態はどうなのか。
 - ・教員定数については適正である。担当業務の内容によって偏りがある。教員の業務にはクラス運営と分掌業務があるが、両方増えてしまうこともある。毎回考えて組んでいるが、負担がかかることもある。マイナーチェンジしつつ、システムを変えている。不平等感は一定、声としてなくならない。いろんな意味での働き方改革が必要である。
 - ・専門職もおればよい。先生方からの相談も受けられるとよい。
 - ・学校経営は保護者との連携が必要である。アンケートの回収率がかなり低くなっている。その点についてはどうか。
 - ・今までと同じ方法であったが、回収にむけてのひと押し、ふた押しがた然なかったと感じている。
 - ・コロナ禍も要因かと思うが、回収率を60%以上でお願いしたい。
 - ・インターネットとの併用を考えてはどうか。
 - ・質問内容の見直しについては、5年程度継続したら、項目を検討していくことも必要ではないか。年度によって変化をみとり、変化の原因を議論することが大切である。

(2) 「令和4年度学校経営計画」自己評価等について

校長より「令和4年度学校経営計画」自己評価を説明。

中期的目標について

- 1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。
 - (1) ①教育課程委員会と教科会の議論が進み、授業時数の調整、HRの活用などが進んだ。
 - ②アンケートの概要項目では若干目標値には足りなかった。今後の課題が残る。
- (2) ①職業科もふくめ、シラバス整理はできたが、3年間の系統だったものが必要と考えている。
- ②学校全体、各学年団で進路指導を行う体制の強化に努めることができた。

- (3) ①校内の専門性の向上、コーディネーターによる研修を実施したが、数値は微減のため、さらなる課題としてとらえている。
- ②リーディングスタッフを中心に引き続きの課題としてとらえ、向上に努める。

2 支援教育力の向上

- (1) ①外部の専門家を交えて支援力の向上にあたる事例検討会を続けている。他校に発信できることを継続していく。
- ②教科の「保健」を中心にやってきた。各学年のものをライブラリとして整理している。次年度は、HR で性に関することを行っていく。継続して取り組んでいく。
- (2) ①校内外の支援について、定期的に会議をもって定例化した。校内外共に、支援力を高めていくシステムができた。
- ②外部講師を招いた研修を行った。
- (3) ①情報文化部を中心として研修を行った。同時に授業をモデル化していく。
- ②教材のストック化はしているが、活用・管理については課題がある。

3 安心で安全な学校環境づくり

- (1) ①生徒のアンケートの結果で「④先生は私たちの障がいについてよく理解してくれている」が微減している。学校に対してネガティブな感情のある生徒もいる。モチベーションをあげられていない。カウンセリングマインドをもってスキルアップしていくことが課題である。
- ②人権教育を HR の系統立てて行っていく。保護者アンケートの結果で「わからない」という回答も多いため、課題とする。
- (2) ①防災計画の見直しに取り組んだ。
- ②防災 PT を発足させ、見直しを進めている。
- (3) ①保護者アンケートの回答で「わからない」が 13%あり、保護者へ発信を行っていく。
- ②HR 活動の充実と、行った内容についての発信が必要である。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) ①教員の負担感、不平等感については、サポートしてもらっていない感覚がある。さらに改善が必要。
- ②時間外在校時間については減少している。

(3) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価について

1. めざす学校像

小項目を付け足した。個別最適な学びがキーワードとなる。実現していくことで、自己肯定感を育む。進路選択が卒業時での就労率だけではなくな
ってきている。卒業後の社会的自立に向けた取り組みに柔軟に取り組んで
いく。

2. 中期的目標

1 教育課程の充実

生徒の特性や保護者のニーズをふまえ、職業の授業を中心に、自分らし
いチャレンジをするキャリア教育を行う。個別の教育支援計画の充実に
努める。

2 専門性の向上

障がい特性、思春期の支援など、学校教育自己診断アンケートの指標を
令和7年度に達成できるようにしていく。

3 安全で安心な学校環境づくり

学校行事についてもアフターコロナを見据えて計画していく。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

各業務の見直しや連携強化により、働き方改革をすすめる。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

重点目標については、昨年度は中期目標に示している項目をすべて入れて
いたが焦点をしばり、ア、イの2項目をあげる形とした。

1 教育課程の充実

(1) 生徒の特性や保護者・地域等のニーズをふまえて各教科・コースの教育
課程について必要な改善を行う。

ア. 3年間の系統性を指標とした。

イ. 観点別評価をふまえた研修を行っていく。

(2) 「職業」の授業を中心に、全教育課程を通して生徒のチャレンジする意
欲を育むキャリア教育を実現する。

ア. 持続可能な「職業」の在り方を検討していく。毎年、開講できるの
か、他校での取り組みも参考にしていく。

イ. キャリアプランニングマトリックスの活用と改善を行う。

2 専門性の向上

- (1) 関係機関連携の充実とセンター機能の強化に努める。
 - ア. 肯定的回答 70%以上になるまで継続して取り組んでいきたい。課題のある生徒へのコンサルテーションを生徒指導として行い、共有していく。かかわりの少ない教員が理解できるような仕掛けを作っていく。
 - イ. 内容を充実させる。実施後のアンケートをとり、肯定率があがるようにしていく。
 - ウ. 職業の授業、実習週間など、外部資源の活用も含め、令和6年度の改善案を示す。
- (2) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。
 - ア. 指導案や教材のライブラリ化をすすめていく。
 - イ. ICT機器、教材、教具の適正な管理に努める。

3 安全で安心な学校環境づくり

- (1) 人権を尊重する学校づくりをすすめる。
 - ア. HRを活用し、3年間の系統的な人権教育計画を作成する。
 - イ. 実施した人権教育の内容をHP等で公開する。
- (2) けが・事故の防止と防犯・防災計画に基づいた危機管理体制の構築。
 - ア. 防災PTによる研修、防災計画の見直しをすすめる。
 - イ. 関係機関と連携し実施していく。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 組織連携の強化
 - ア. 働き方改革の発想の転換が必要、学校の中の資源、連携の線をつなげていく。学級経営、分掌業務の中で誰がイニシアチブをとっていくのか、はっきりすることで学級と分掌の業務が1人の人に集中しないシステムが必要。
 - イ. 教員としての専門性も必要だが、マネジメント、効率的な組織としての連携をしていく。

- 意見
- ・最後の項目の校務の効率化と働き方改革の推進については、45時間以上の時間外勤務の方が何人かおられるとのこと、36協定もある。その方々が倒れられることも考えられる。仕事を分けていく。業務の分散せめて36時間で終わられるようにしてもらいたい。
 - ・(1) 教職員の専門性向上の文言で「さらなる」とつけるとよいのではないか。(2) では「いっそうの」と前につけるとよいのではないか。

- ・学校は本当にたくさんのことを行わなければならない。抜本的な変化、外部のやり方をとりいれていかなければ、変わらないのではないかと感じている。
- ・いろんな意味で大変な状況の中でどのように考えていくか、状況を真摯に受け止めてやっていく姿勢が大切なのではないかと感じた。めざす学校像でも自分らしさを押し出されていて、すべてにおいて支援学校の姿勢に安心できると感じた。心理的安全性が問われていると思う。
- ・先生方の負担が大きいと感じた。働く時間が減って、教師になりたいという学生が増えるとよい。
- ・それぞれの先生方が一生懸命しておられる。主は子どもたち、先生方の健康を維持していくことが大切。健康管理と同時に仕事を効率化できるか。この学校でやってきたことが楽しかったと思ってもらえる教師生活を送ってほしい。

まとめ

3回の会議の中でいただいた意見が生徒、教員一人一人に伝わるような学校経営をしてほしい。

(4) その他

- ・意見箱、校長Dメールには意見なしと教頭より報告。

⑥校長より謝辞